

平成21年9月

天木 誠 学位論文審査要旨

主 査 西 村 元 延
副主査 重 政 千 秋
同 久 留 一 郎

主論文

Usefulness of three-dimensional echocardiography in assessing right ventricular function in patients with primary pulmonary hypertension

(原発性肺高血圧症患者の右室機能評価における3次元心エコー図法の有用性)

(著者：天木誠、中谷敏、神崎秀明、京谷晋吾、中西宣文、重政千秋、久留一郎、北風政史)

平成21年 Hypertension Research 32巻 419頁～422頁

審査結果の要旨

本研究は、原発性肺高血圧症患者に対してドプラ波形より推定された dP/dt を3次元心エコー図法で求めたEDVで除した非侵襲的指標 $dP/dt/EDV_{3D}$ が、侵襲的に求められた右心カテーター検査値や重症度と相関があるかを検討したものである。その結果、 $dP/dt/EDV_{3D}$ は心係数、平均右房圧などの右心血行動態のみならず、疾患の重症度の指標であるBNPと有意な相関を認めた。一方、 dP/dt や $dP/dt/EDV_{2D}$ はいずれの指標とも有意な相関を認めなかった。本論文の内容は、予後が極めて不良な原発性肺高血圧症患者において、非侵襲的計測値である $dP/dt/EDV_{3D}$ が侵襲的な検査結果を推定する指標であることが証明され、その重症度評価や薬剤治療効果の判定に有用である可能性を示唆した。以上の結果から、本研究は循環器病学において明らかに学術の水準を高めたものと認める。